

顕彰状

菊竹清訓氏は、1928年福岡県久留米市に生まれ、1944年早稲田大学専門部工科建築学科に入学、1950年同大学理工学部建築学科を卒業した。卒業後、(株)竹中工務店と村野・森建築設計事務所で実務を経験し、1953年には菊竹清訓建築設計事務所を開設し、建築家として本格的な活動を開始している。以来、半世紀以上にわたって最前線に立ち続けている日本の代表的な現代建築家である。

多くの作品、著作を世に出す傍らで、氏は重要な国際会議で多くの講演をしている。また、自らの事務所および世界中の大学で後進の育成を続ける一方、多くの国家プロジェクトにおいて指導的役割を果たしている。

菊竹氏の活動は、住居、美術館、博物館、都市計画、構造、設備、地球環境、日本の伝統、人間の総合性など、極めて多面的な広がりの中にあり、そこに、氏の真骨頂がある。菊竹氏の初期の傑作である「スカイハウス」、「国立京都国際会館案」、「出雲大社庁の舎」などに込められたものは、技術の発展が可能にする創造的ひらめきと、新しい時代に立ち向かう人間への熱望であった。そのような激しい想いが、新しい建築の豊かさを求めた近作の「島根県立美術館」、「九州国立博物館」、「江戸東京博物館」の中に生き続け、幾重にも深みを増した名作として結実している様を見ることができる。

氏は、天才的な芸術家であるにとどまらず、偉大な教育家でもあり続けた。また、早稲田大学建築学科の講師や客員教授を務められ、菊竹建築学奨学金を設立されるなど、長年にわたる偉大な貢献をされた。とりわけ、全人的な建築家としての活動が、後進に与えた影響は大きいと言わねばならない。

ここに早稲田大学は、建築活動の業績と早稲田大学に対する功績と貢献に対して、菊竹清訓氏を早稲田大学芸術功労者として表彰し、その栄誉を永く顕彰するものである。

2006年4月1日

早稲田大学